

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	北八ヶ岳の特色個性を学び、山岳観光や地域の活性化に生かす事業
事業主体 (連絡先)	メルヘン街道協議会 (事務局：ちの観光まちづくり推進機構 0266-78-7631)
事業区分	特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	2,093,980 円 (うち支援金：1,654,000 円)

事業内容

1 冷山の黒曜石露頭と地獄谷火口の観察会

○大石・冷山の黒曜石の露頭を訪ねる(八ヶ岳火山と黒曜石)八ヶ岳の成り立ちを知る。黒曜石の露頭はどのように生成されたのかを通じて、八ヶ岳の生い立ちを知り、古代人との関りをも探る。

○地獄谷火口、麦草峠近くにあり岩がゴロゴロした深いすり鉢状で、幅約70m、深さ約40mの八ヶ岳噴火の痕跡を知る。

2 八ヶ岳とジオパークシンポジウム

○八ヶ岳の生い立ちに迫る様々な痕跡を探して八ヶ岳の魅力や歴史・文化などを再発見する。「ジオパーク」とは「なんぞや?」わかりやすく解説。

3 山岳専門の気象予報士、猪熊隆之氏(ヤマテン代表)と歩く北八ヶ岳・空見ハイキング

○日本初の山岳気象予報専門、猪熊氏に講義40分、講義後、標高2,120mを起点に2,249m高見石を目指し雲や風の気持ち、天気が豹変するサマなどの解説を聞き、ときには雲を見下ろしながらたっぷりと楽しむハイキング。

4 諏訪鉄山見学会

○八ヶ岳の褐鉄鉱の産状と鉱山開発の歴史に迫る。



【北八ヶ岳・空見ハイキング】

【目標・ねらい】

- ① 住民参加を促す
- ② 八ヶ岳の魅力の掘り起こし
- ③ 広域連携の促進
- ④ 観光地としての差別化

※自己評価【 A 】

【理由】

特に観察会において、告知段階で広域の3市町同時に全世帯に告知することができ、定員を大きく上回る参加申し込みがあった。

事業効果

観察会やワークショップなどを集約し一元的に、多面的にテーマをもって行うことで、八ヶ岳のより深い学習効果が得られる。インタープリターの育成にも役に立つ。それらに対応したガイド「八ヶ岳学」は、単なる観光地ガイドとは異なり、人々の知的好奇心を満たす効果がある。また、諏訪鉄山の遺構は案内無しでは観察できにくかったが、案内板類を設置することで、訪れる見学者や研究者が、案内を請わなくても常時観察が可能な、産業遺産として学べる「フィールドミュージアム」化ができる。

地域住民に保全に参加して貰う事で、風化しがちな地域の歴史を残せる。

(別記様式第12号) (第3の8関係)

観察会の実施については、3市町の全戸にチラシ配布で告知したことで、広範囲から参加者があった。

多数の参加者が、テーマの異なる3回の観察会に複数~3回参加した。興味の高さが伺えた。

茅野市・佐久穂町・小海町からまんべんなく参加者があり、情報交換や交流の機会が得られた。

看板の設置

これまでは、諏訪鉄山跡地を訪れても、地理に不案内であったりすると、見学できずに帰る場合も多かったが、案内板、看板を設置したことで、見学者がスムーズに見学できているように見受けられる。また、地元や周辺の人たちに諏訪鉄山を再認識してもらえた。

八ヶ岳学パンフレット

北八ヶ岳・メルヘン街道エリアを、観光パンフレットと取り上げる場所は同じであっても、紹介されないその土地の歴史や博物学的な見方ができることで、より興味を持ってもらえると感じた。

ジオパークの勉強会

専門的知識のある方のお話を聞くことができ、参加者が一層八ヶ岳に興味を持つことができた。

市町村を超えた広域連携の為のツールとして、ジオパークは有効である事が参加者に理解できた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

「地球活動や火山活動が産み出した八ヶ岳」に注目し、八ヶ岳の成り立ち、地形や地質だけでなく、それらと深くかかわりのある気候風土に根差した人々の暮らしや知恵、歴史や生態系を知り、楽しむ事ができるジオストーリーの開拓をする。

地域に暮らす人々との協働により持続可能な、環境保全・教育・選ばれる観光（ジオツーリズム）を推進する。

この2つのテーマに沿って

八ヶ岳を識る観察会の開催を継続し、地域の人々に理解され協力を得る持続可能な選ばれる観光地づくりをする。

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある